



ハヤ ク オー エン  
# 8 9 0 0

## 神戸ひきこもり支援室

---

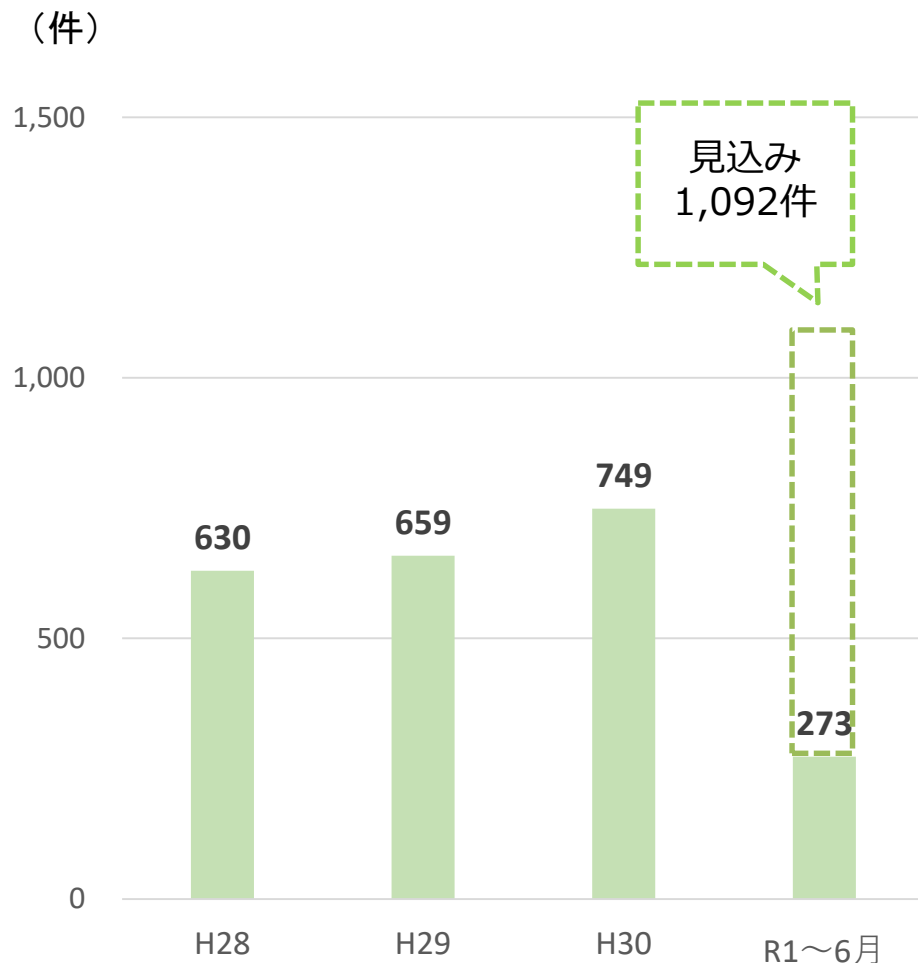
～ひきこもりは、個人の問題ではなく  
社会全体で取り組む課題です～

令和4年6月10日

第159回 市町村職員を対象とするセミナー  
神戸市福祉局ひきこもり支援室



# ひきこもり支援室 開設の経緯



- ・ 8050問題等への社会的関心の高まりにより、令和元年度の相談件数が、前年比約5割増加
- ・ 令和元年4月、神戸市に関係部署や市民・地域団体などをつないで課題解決に導く、「つなぐ課」を設置。市長から、「ひきこもり支援策検討」の課題提示があった。

ひきこもり地域支援センター相談件数  
※平成21年10月設置 (NPO法人委託事業)



# ひきこもり対象者数の推計

## ●内閣府の調査によると

	15～39歳	40～64歳
対象人口	約3,445万人	約4,235万人
出現率	0.51%	0.87%
推計数	約17.6万人	約36.5万人

15～39歳は、H27年度調査  
40～64歳は、H30年度調査

## ●これを神戸市人口に換算すると

	15～39歳	40～64歳
対象人口	約40.9万人	約51.3万人
推計数	約2.1千人	約4.5千人



市内のひきこもり 約6,600人 (推計)



# ひきこもりに関する主な相談機関

乳幼児・青少年期

若者・壮年期

高齢期

## ひきこもり地域支援センター

医療や障害に関する特別な支援の必要性  
あり  
なし

【精神医療保健】医療機関  
【福祉】  
・児童相談所  
・福祉事務所  
・更生相談所  
【教育】青少年育成センター(教育支援センター等)

支援  
機関  
移行

【精神医療保健】医療機関、精神保健福祉センター  
【福祉】  
・保健福祉課(区) ・障害者相談支援センター  
・障害者地域活動支援センター ・発達障害者相談窓口  
・更生相談所 ・精神通院医療  
【就労】しごとサポート(障害者就労相談等)、就労継続支援事業

～18歳未満

18歳～44歳

45歳～64歳

・地域包括  
支援センター

【教育】  
・学校  
・フリースクール  
・スクールカウンセラー  
・スクールソーシャル  
ワーカー

所属が  
なくなる

【就労】  
・ハローワーク  
・ワークサポート  
・若者サポートステーション  
・就労準備支援事業  
【その他】居場所(イン  
フォーマル含む)

【就労】  
・ハローワーク  
・ワークサポート  
・就労準備支援事業  
【その他】居場所(イン  
フォーマル含む)

ひきこもり支援  
の連携拠点が  
必要

【福祉】暮らし支援窓口(自立相談支援事業)(区)、地域福祉ネットワーク(区)  
【精神医療保健】保健センター(区)



# 神戸市のひきこもり支援 ～神戸市ひきこもり支援施策検討会の実施～

## 神戸市ひきこもり支援施策検討会 概要

1. 設置目的  
多様な課題を抱えるひきこもり状態にある方及びその家族等に対する相談機能の充実、さらなる支援策の検討及び潜在的なひきこもり者への啓発等についての検討を行うことを目的とする。
2. 開催状況  
第1回 令和元年8月23日(金)  
第2回 令和元年10月8日(火)  
第3回 令和元年12月6日(金)  
第4回 令和2年1月21日(火)
3. 委員(\*座長)

区分	氏名	役職等
学識経験者	*松原 一郎	関西大学社会学部 教授
	船越 明子	神戸市看護大学看護学部 教授
関係機関	近藤 誠宏	神戸市医師会 副会長
	羽下 大信	兵庫県臨床心理士会 会長
	北岡 祐子	兵庫県精神保健福祉士協会 会長
支援機関	高宮 静男	たかみやこころのクリニック 院長 (神戸市教育委員会不登校事例検討会専門委員)
	佐伯 隆義	こうべ若者サポートステーション 総括コーディネーター
	岸田 耕二	社会福祉法人 すいせい 理事長
	飯島 久道	神戸市社会福祉協議会担当局長
家族会	藤本 圭光	NPO法人 神戸オレンジの会 理事長

## 提言概要

### 理念

ひきこもりは個人の問題ではなく「社会的孤立」という社会的課題。市民や事業者との協働のもとに全市的に取り組むべき。

### 神戸ひきこもり支援室は

ひきこもり相談の総合支援拠点

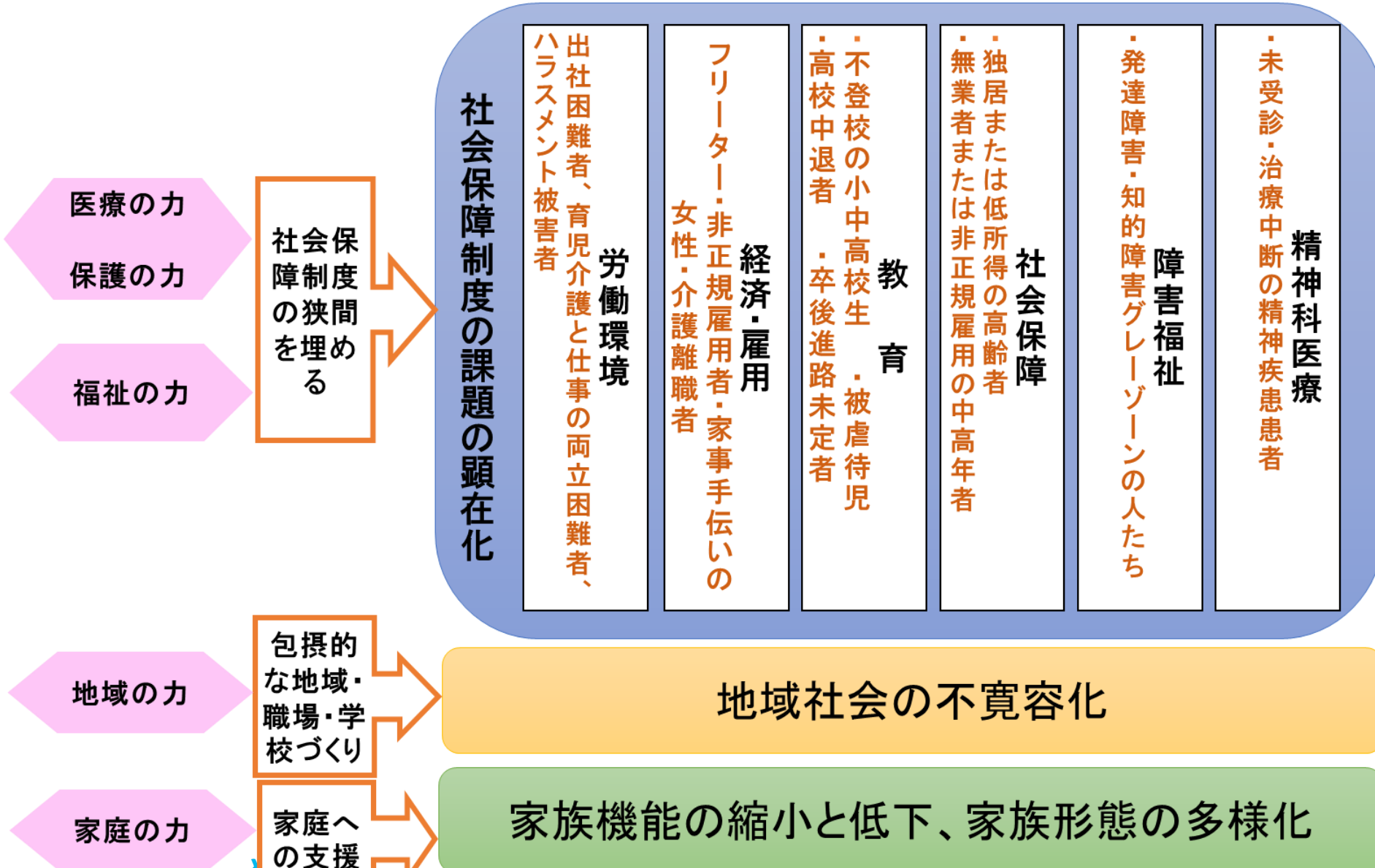
相談・支援のプラットフォーム



### 5つの提言

- 1 ワンストップ窓口で切れ目のない支援を
- 2 ネットワークによる支援
- 3 多様な社会参加に向けて
- 4 支援者の育成
- 5 情報発信・啓発

# 社会的孤立(ひきこもり)の実態

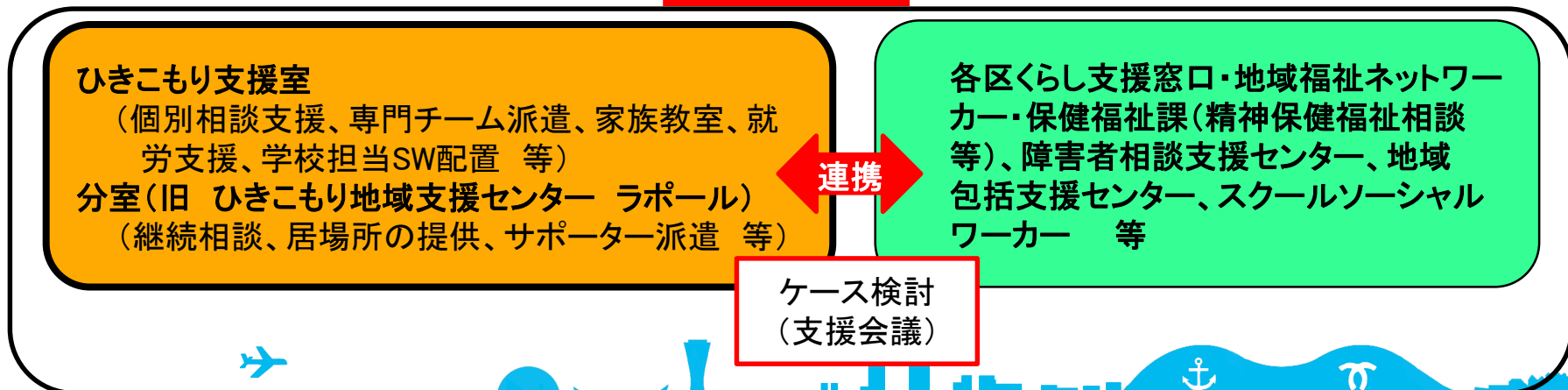
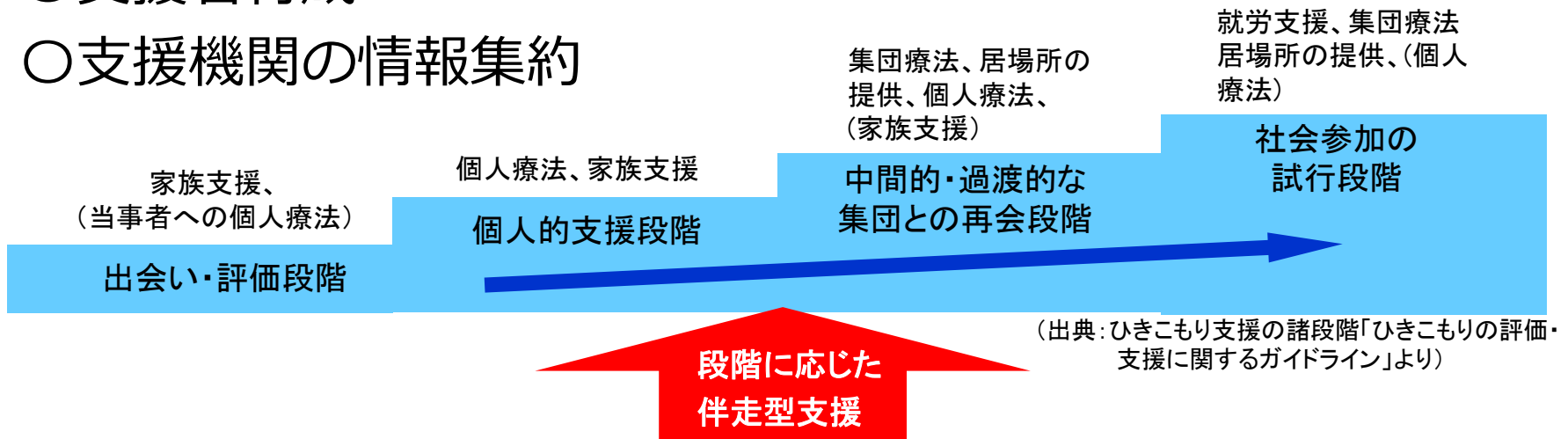




# 神戸ひきこもり支援室の役割

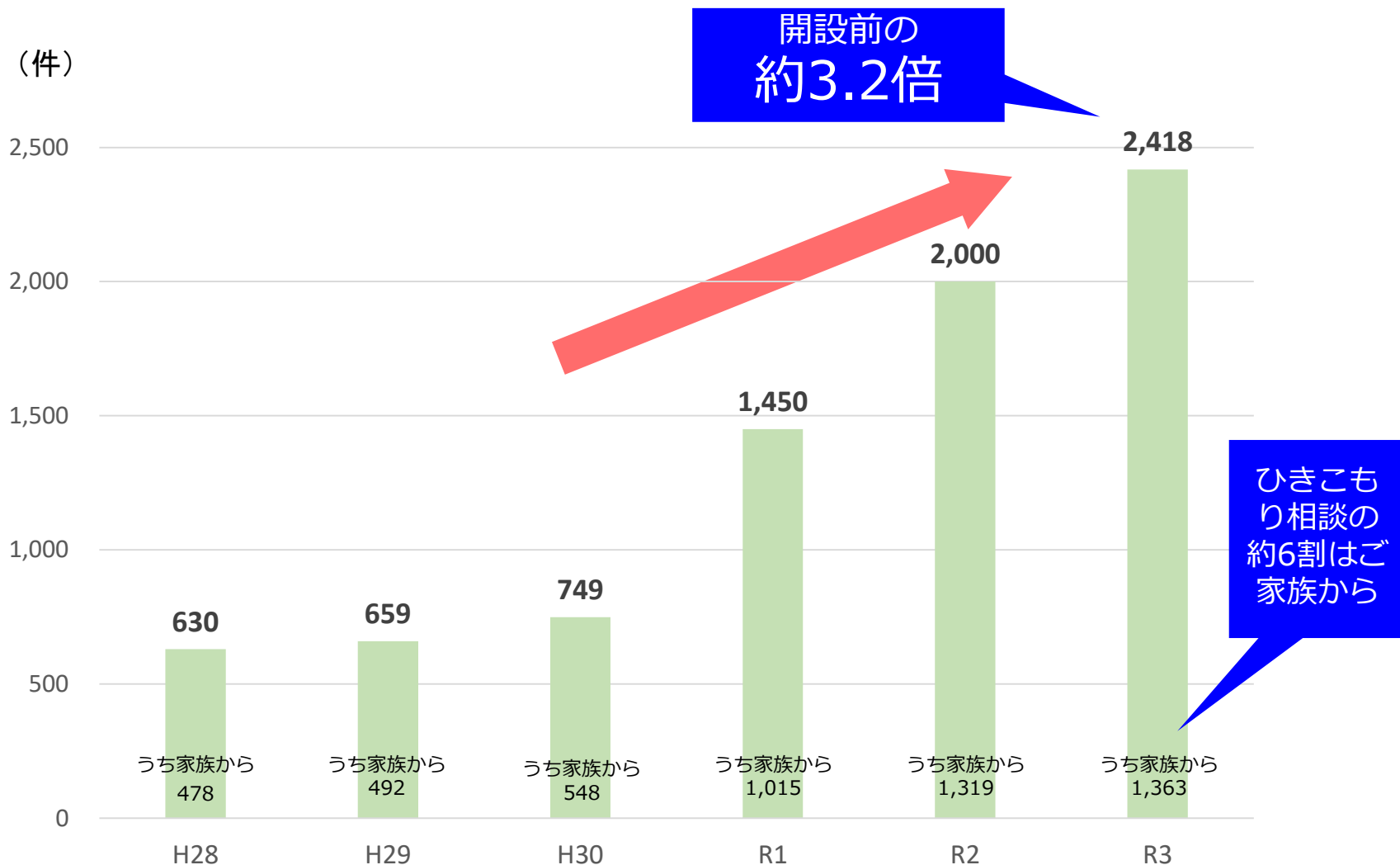
BE KOBE

- 一次相談窓口・総合支援拠点
- 連携体制づくり・連携支援
- 支援者育成
- 支援機関の情報集約





# 神戸ひきこもり支援室及び地域支援センター相談件数 BE KOBE



※令和元年度2月にひきこもり支援室開設  
(令和元年度1月まではひきこもり地域支援センター委託事業)

# 神戸ひきこもり支援室 相談実績 (その1) BE KOBE

(令和2年2月3日～令和4年3月31日)

相談日数 525日間  
 平均対応件数 約8.3件/日

## ○初回相談実数

種別	人数	割合
電話	679	62.5%
来所	358	33.0%
訪問	9	0.8%
メール	40	3.7%
合計	1,086	100.0%

## ○相談件数(延べ)

種別	件数	割合
電話	1,992	41.3%
来所	2,528	52.4%
訪問	205	4.3%
メール	96	2.0%
合計	4,821	100.0%

再掲)オンライン相談  
12件

## ○初回相談者

種別	人数	割合
本人	205	18.9%
親	700	64.5%
きょうだい	78	7.2%
その他親族	39	3.6%
支援機関	49	4.5%
その他	13	1.2%
不明	2	0.2%
合計	1,086	100.0%

※家族からの相談が約7割



# 神戸ひきこもり支援室 相談実績累計 (その2) BE KOBE

(令和2年2月3日～令和4年3月31日)

○対象者性別  
(メール相談除く)

性別	人数	割合
男	800	73.7%
女	275	25.3%
不明	11	1.0%
合計	1,086	100.0%

○対象者年代  
(メール相談除く)

年代	人数	割合
10代以下	141	13.0%
20代	267	24.6%
30代	291	26.8%
40代	220	20.3%
50代以上	136	12.5%
不明	31	2.9%
合計	1,086	100.0%

○ひきこもり期間

期間	人数	割合
～6か月	127	11.7%
6か月～1年	72	6.6%
1年～3年未満	172	15.8%
3年～5年未満	92	8.5%
5年～10年未満	162	14.9%
10年以上	330	30.4%
不明	131	12.1%
合計	1,086	100.0%



# 初回相談者別相談内容

(主な相談内容・複数回答)

BE KOBE

(その3)

(令和2年2月3日～令和4年3月31日)

本人からの相談(上位)	割合
社会復帰したい、就労したい	26%
どうしたらいいのかわからない、とにかく相談したい	17%
自立したい、ひきこもりから抜け出したい	15%
外出が怖いなどの精神的な相談	3%
家族からの相談(上位)	割合
本人にどう働きかければよいか	30%
働いてほしい、働く意欲をもってほしい	15%
今後のことが不安、家族亡き後が不安	15%
どうしたらいいのかわからない、とにかく相談したい	11%
治療を受けてほしい	2%

その他(コロナ関連相談)	(令和2年度 28件/令和3年度 9件)
支援機関での面談予定が延期になった	11件
家族が在宅勤務になり、本人・家族がイライラし関係が不安定に	3件
リモート授業を契機に大学等に復帰することができなくなった	2件



## 区定期相談会

- 本人及び家族が来所相談しやすいように、より身近な場所である区役所での相談会を各区概ね月2回程度実施



## 専門職チームの派遣

- ひきこもり状態にある方の中には、精神医療とつながることによって、状態が改善されることがあるため、精神障害の疑われる未受診の方のうち、緊急あるいは重篤な方に対して、精神科医師・精神保健福祉士・社会福祉士等からなる専門職チームを派遣し、精神疾患の診断や治療の必要性について見立てを行い、必要に応じて治療への導入を図る。

## 家族教室

- ひきこもりを理解し本人への対応を学ぶ家族教室と家族同士の交流会を月1回開催。また、家族教室修了者のうち希望者が、家族の居場所に参加



## 就労支援の実施

- 本人就労のためのアセスメントを行い、どのような分野の就労に適正があるか推定し、試行的な就労を含めて就労支援を行う。



## 学校担当ソーシャルワーカーによる支援

- 中学校卒業後や高校中退後も切れ目ない支援が継続できるよう、ソーシャルワーカーを配置して、中学在学中から学校・スクールソーシャルワーカー等と連携した支援を実施。(学籍があるケースを支援)

## 分身ロボット (Orihime) を活用した居場所参加支援

- 居場所参加に戸惑いのある本人が、自宅等からPCやスマートフォンを使って分身ロボットを操作し居場所に参加。



○市内の介護支援専門員対象に「ひきこもり状態にある方の相談・支援に関するアンケート調査」を実施  
(R3.10.20~11.19オンライン調査)

＜調査結果＞ 回答数 115 (回収率12.8%)

- ・介護支援専門員の 33%が同居者のひきこもりを把握
- ・ひきこもりを把握した介護支援専門員のうち 37%はひきこもり支援室など相談窓口につないでいない。
- ・今後の8050世帯への支援において、「ひきこもり支援室との連携方法の明確化」「家族向けひきこもり理解のパンフレット」「支援者用社会資源一覧の作成などの希望があった。

➡調査結果を踏まえ、令和4年度取組予定



# ひきこもり支援室相談結果（令和3年度末現在）PE KOBE

## ○全体

相談実人数 775人

①継続支援 239人(31%) うち本人支援 64人

②相談終了 536人(69%)

内容：相談内容解決、様子を見る、問合せ情報提供

※全相談のうち約5割（継続支援と解決の割合）を継続支援

## ○再掲 学校担当SWによる支援

相談実人数 99人

①継続支援 59人(60%)

小学生 4人、中学生 19人、中卒後無所属 5人、高校生 11人、

高中退後無所属 3人、高卒後無所属 8人、大学生 9人

※対応後に変化 22人(37%) 学校等と協議・役割分担大切

②1回の電話相談で終了等 40人(40%)





# 「神戸ひきこもり支援室」 設置後の取組と課題

BE KOBE

令和元・2年度

令和3年度

令和4年度

方向性	取組み	追加した取組み	追加した取組み
ワンストップ 窓口	<ul style="list-style-type: none"> <li>区役所相談会</li> <li>家族教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン面談</li> <li>8050家族教室</li> <li>家族の居場所</li> </ul>	
ネットワーク 支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門職チーム派遣</li> <li>学校担当相談員の配置</li> <li>支援会議の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひきこもり支援連絡会</li> <li>雇用・就労庁内PF</li> <li>ケアマネジャーアンケート調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援マップの作成</li> </ul>
多様な社会 参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>就労支援</li> <li>超短時間雇用</li> <li>障害者地域活動支援センター</li> <li>区社協生きがい・やりがいづくりの居場所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分身ロボットによる居場所参加</li> <li>農業体験(民間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当事者の居場所(リアルとデジタル)</li> <li>定着支援</li> </ul>
支援者の 育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>市区単位の関係機関研修会(民生委員、地域包括支援C等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関研修会での連携事例紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケアマネジャー研修会</li> </ul>
情報発信 ・啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅舎デジタルサイネージ等</li> <li>兵庫県ポータルサイト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>区国保窓口にチラシ設置</li> <li>国ポータルサイト</li> </ul>	
※課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>窓口啓発・役割周知</li> <li>多様な社会参加</li> <li>コロナ禍でのICTを活用した支援</li> <li>8050世帯親なき後への不安対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関別連携方法</li> <li>ケアマネジャーとの連携による050支援</li> <li>就労復学後の定着支援</li> <li>当事者の居場所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存・他機関事業</li> </ul>

「ひきこもり」は決して  
個人や家族の責任ではありません。

一人で抱え込まずに、  
お早めに悩みをお聞かせください。

- ・子どもが部屋に閉じこもったまま出てこない…
- ・ひきこもった子どもとどう接したらいいの…?
- ・最近、会社を休みがち…先行き不安…
- ・人と関わりたくない 部屋から出たくない
- ・就職したいけどどうしたらいいかわからない